

各 位

平成 29 年 10 月 19 日

学校法人ノースアジア大学
学園広報担当

第 26 回模擬裁判

裁判劇を通して法律学の学習成果を発表

ノースアジア大学法学部では、学生が中心となって制作から公演まで行う「模擬裁判」を10月21日（土）に開催します。

模擬裁判は、法学部の伝統行事として行われており、今回で26回目を迎えます。

この行事は、裁判員裁判制度をとり入れて制作した裁判劇で、途中に法律の用語をスクリーンに投影するなどし、一般の方にも、裁判の流れや裁判員の仕事に関わることをわかりやすくお伝えすることを念頭に置いています。

入場料は無料で事前の予約等は必要ありません。

入場される方全員にパンフレットをお配りいたします。皆様のご来場をお待ちしております。

【日時等】

1. 日 時 平成 29 年 **10 月 21** 日（土） 開演 **13:00**（開場 12:30）
2. 場 所 ノースアジア大学古田記念講堂（秋田市下北手桜守沢 4 6 - 1）
※詳しくは、当日、大学内の案内板をご覧ください。
3. タイトル 消せない真実 ～ 殺人か、自殺関与か ～
4. 入 場 料 無料
5. 主 催 ノースアジア大学法学部 / 模擬裁判実行委員会

【広報に関するお問い合わせ先】

学校法人ノースアジア大学（学園広報担当）

TEL 018-836-6527 FAX 018-836-3321 E-MAIL : koho@nau.ac.jp

〒010-8515 秋田市下北手桜守沢 46-1

模擬裁判公演について

1. はじめに

模擬裁判は、企画、舞台製作から脚本、演技まで学生が中心となって担当しています。法律を勉強する学生にとって日頃勉強している内容をさらに深く研究し、その成果を発表する貴重な機会です。

また、ご来場の皆様にとって法律や裁判員制度を理解していただくきっかけとなれば幸いです。

2. 制作について

裁判員裁判（刑事裁判）の流れや裁判員にどのような役目があるのかをわかりやすく表現しています。手続の流れや事件についての検察側・弁護側の主張、劇中で使用する法律用語等はスクリーンに解説を表示して、裁判員裁判を理解しやすいように視覚的な配慮をしています。また、劇中でクイズを出したり、休憩時にアンケートをとるなど、観客に参加して一緒に考えてもらう工夫をしています。

3. あらすじ

被告人伊藤誠は、被害者篠田ハツエから事業投資等の名目でお金を借りていましたが、返済ができない状況に陥っていました。いずれ被害者にその事情を知られ警察沙汰になること免れるため、被害者を自殺に追い込むことを考えるに至りました。

被告人は、被害者が他者にもお金を貸していたことが出資法という法律に違反しており、まもなく警察が調べに来るなど嘘の事実で脅迫。不安と恐怖に陥った被害者を警察から逃れるためという口実で、17日間にわたり、各所を連れ回し、1人で潜ませていました。

被告人に連れ回しされた被害者は、体力も気力も弱まっていた。さらに、被告人は警察に捕まれば身内の者にも迷惑がかかるなどと話し、知り合いや親戚との接触を断たせました。そのうえで、被害者がどこにも逃げ隠れる場所がないという状況にあると思込ませて、執拗に自殺する以外に取るべき道はない旨を話し、心理的に追いつめていきました。

事件当日、警察官が被告人方まで事情聴取に来たなどと告げて恐怖心を煽る一方、もはや匿うことはできないと告げて突き放しました。そのうえで、被害者が隠れ家として託していた場所が無いことを確認させたすえ、逃げる事が出来ないと思込ませ自殺を決意させました。その後、被害者は自ら農薬の原液約100ccを飲んで死亡しました。

検察官は「被害者を欺き、錯誤に陥れるとともに、長期間の度重なる心理的強制の結

果としての自殺は、被害者の意思決定を混乱させ、被害者の自由な意思に基づいた自殺とはいえない。本件における被告人の一連の行為はもはや自殺教唆ではなく、いわば被害者自身を道具のように利用した殺人罪の間接正犯である」と主張。

これに対し弁護人は「被告人の被害者に対する働きかけ行為は、意思決定の自由を奪う程の強度の強制ではない。被害者はいまだ正常な判断能力を有しており、同人の自殺は真意に基づくものがあった。本件における被告人の一連の行為は殺人に当たらず、単に自殺教唆に留まるものである」と弁護します。

3人の職業裁判官と一般市民より選ばれた6人の裁判員が、検察・弁護側双方より挙げられる証拠をもとに判決を下します。



第 26 回

模 擬 裁 判

消せない **真実**

～殺人か、自殺関与か～

入場無料

日時：2017年10月21日（土）開場 12：30 開演 13：00

場所：ノースアジア大学 古田記念講堂

主催：ノースアジア大学法学部・模擬裁判実行委員会